

納得のいく治療を受ける指針に セカンドオピニオンを考えてみませんか？

たとえば、がんの診断を受けた時、適切な情報を得て、疑問や迷いを抱くことなく最善の治療を受けたい。そのための選択肢の一つとして、海外の高水準な医療施設にセカンドオピニオンを求めるといった方法があります。



©Science Photo Library/アフロ

理解と納得のための セカンドオピニオン

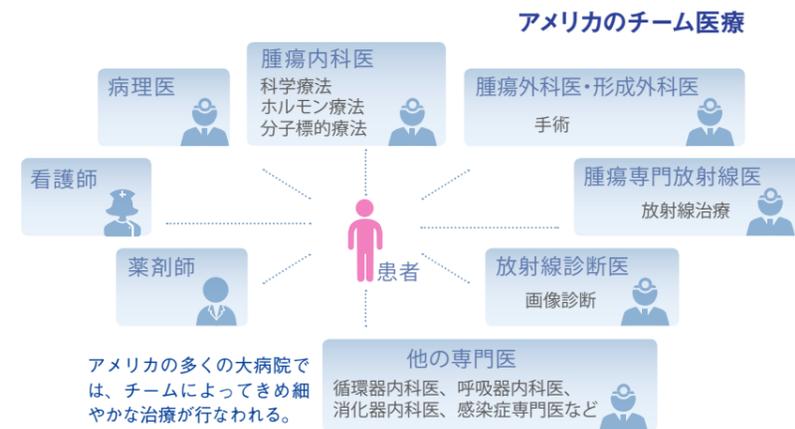
「その時が訪れたら、勇気を持って病気に立ち向かおう。そうは思っても、いざ当事者となった場合、果たして冷静に治療法を考えられるだろうか。医療行為に必要な手続きとしてインフォームドコンセント(十分な説明と同意)が一般化した現在、医師任せではなく、自身が主体となって病気を

と向き合うのも本人の責務であろう。とはいうものの、主治医の説明を理解したつもりでも、結論を出せずに思い悩むことがあっても無理からぬこと。そんな時のための支えとなるのが、「セカンドオピニオン」だ。セカンドオピニオンとは、主治医以外の医師に「第2の意見」を求めることをいう。転院や医師を替えることが目的ではなく、主治医の診断が確かであることを確認するために、あくまでも主治医とともに最適な治

療法を選択することが前提なので、「失礼な気がして言い出しにくい」との思案も余計。不安や迷いを感じながらの闘病ではなく、強い心で治療に専念するためには、あらゆる情報を把握し、納得して治療法を選ぶこと。そして、自身や家族が「これが最善」という確信に至るまでのプロセスをきちんと踏むことが重要なのだ。そういう意味で、セカンドオピニオンは、納得と安心感を持つための機会として、とても有意義な手段といえるだろう。セカンドオピニオンを得るにあたっては、混乱を招かないためにも主治医の見解を十分に理解しておくことが不可欠。また、かけがえのない生命を守るために、タイミングを逸することのないよう、できるだけ早期段階での検討をおすすめしたい。

治療の選択肢を求めて 米国の高水準な施設へ

セカンドオピニオンは、その必要性の高まりから、専用外来を設ける病院も増え、日本の医療現場に定着しつつある。またその一方で、最高峰の治療に期待を寄せて、アメリカにセカンドオピニオンを求めたり、治療のための渡米を考える人が増えているという。というのも、多数の症例に合わせて設定された「標準治療」がアメリカはレベルが高い上、常に更新されている。



アメリカの多くの大病院では、チームによってきめ細やかな治療が行なわれる。

また、各科の専門医、病理学専門医、放射線学専門医、薬剤師、ソーシャルワーカーといった専門性の高いスタッフが一括の垣根なくチーム体制で取り組み、互いの意見を尊重しながら患者主体の治療が実践されること。さらには日本では未承認の薬を使った治療も現地で受けることができる、といった背景がある。

位にランキングされる「MDアンダーソンがんセンター」をはじめ、69の様々な医療施設が結集。新たな治療法の研究・開発に勤しむとともに、国内外を問わず、先端医療を受けたいと望む多数の患者を受け入れ、幅広い要求に応えている。自身はもちろん、家族の健康や生命にかかわる場面で、心から納得できる道を選ぶのは誰もが望むこと。より良い医療環境を求めて、海外に目を向けるという選択肢があることも、念頭に置かれてはいかがだろうか。



MDアンダーソンがんセンター(上)やニューヨークのメモリアル・スローン・ケタリングは全米におけるがん医療の最高峰として双璧をなす。



アメリカの最先端医療機関で セカンドオピニオンの取得をお考えなら

メディアエゾンがサポートいたします。

メディアエゾンは、「テキサス・メディカルセンター」を拠点に、患者様の立場に立ってアメリカの医療機関とのコミュニケーションをサポートする窓口です。日本の患者様が、セカンドオピニオンを含め、アメリカの最先端医療を安心して利用できるよう、「MDアンダーソンがんセンター」をはじめ、がん医療で定評のある病院と提携。医師との連絡や医療情報の翻訳、渡米される場合はホテルや航空券の予約や空港への送迎、受診手続き代行など、トータルな環境作りをいたします。全米トップクラスの医療機関にご関心をお持ちの方は、ぜひメディアエゾンにご相談ください。

- **日本にいながら現地の病院からアドバイスを受ける**
提示された治療法の日本語訳や質問のやりとりをメディアエゾンが代行。渡米することなくセカンドオピニオンが取得でき、精神面、体力面の負担が少ない方法です。
- **渡米して現地でセカンドオピニオンを受ける**
日本人医師の協力と理解を得て可能になるサービスです。渡米前の手続きから、渡米後の院内の付き添いなど、できる限りのサポートをいたします。
- **セカンドオピニオンと、さらに日本では不可能な治療を受ける**
渡米してセカンドオピニオンを得て、アメリカでの治療を決心された方へのサポートです。日本では未承認の最新薬や治療を受けることができます。

まずはメディアエゾンのホームページ www.mediaison.com をご覧ください。

お電話でのお問い合わせ
 キャンサーコネクト株式会社 メディアエゾン日本窓口担当:藤田雄一
 03-6903-6088 (9:00~17:00 土・日・祝日休み)



メディアエゾン代表/
コーディネーター
上野美和

大阪薬科大学卒業。日本薬剤師免許取得。1991年に渡米し、ピッツバーグ大学病院にてボランティア、MDアンダーソンがんセンター内にリサーチチーフ、データマネージャーとして臨床試験や患者の医療情報に関わるデータ作成に従事。2002年にテキサス州公認のLimited Liability Companyとしてメディアエゾンを設立。講演、雑誌への寄稿などでも活躍。